



No. 72

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2015

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

国立台湾大学にて第6回アジア大学演習林シンポジウム開催

2015年10月6日（火）から7日（水）にかけて、アジア大学演習林コンソーシアムの第6回シンポジウムが台湾の南投県にある国立台湾大学実験林溪頭自然教育園区で開催され、韓国、中国、台湾、日本から教職員と学生合わせて57名が参加しました。会場では、さまざまな分野の研究発表59件が口頭ならびにポスター形式で行われ、各国の大学・演習林における研究や管理に関する情報・意見交換を通じた交流が積極的に行われました。シンポジウム終了後、台湾大学実験林の各営林区を訪問し、森林の状況や演習林管理運営の現場を見学しました。



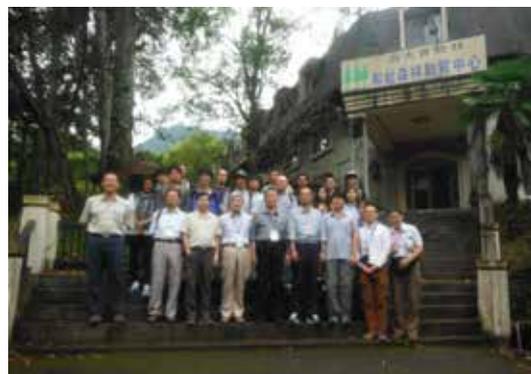
学生による口頭発表の様子



ポスター発表の様子



森林セラピーの実証試験に協力



東大、ソウル大、台湾大の皆さんと集合写真

演習林産のご神木で20年ぶりの 「鳥居曳」祭礼

千葉演習林

伊勢神宮に連なり800年余の歴史を持つ千葉県鴨川市の天津神明宮（あまつしんめいぐう）では、伊勢神宮の式年遷宮と同様に、20年ごとに鳥居を建替えます。2014年12月8日（月）の「神木斧始祭」で鳥居用に千葉演習林のスギ7本の伐採が始められ、以後は氏子の方々が樹皮を剥くなどの一連の祭礼が続きました。2015年8月22日（土）～24日（月）には、最大の神事である鳥居曳（とりいひき。あるいは鳥居木曳：とりいぎひき）が盛大に行われ、天津の町はお祭り一色となりました。鳥居曳には、石橋千葉演習林長も招待されました。鳥居木は、氏子たちによって町内を曳き廻されたのち、天津神明宮に無事に奉納されました。その後、9月18日（金）に鳥居が建立、10月15日（木）に通り初め・上棟が行われ、祭礼にかかわる一連の行事が完了しました。



飾り立てられた鳥居用丸太（鳥居木）と地域の人々

演習林の技術職員3名が 森林管理技術賞を受賞

2015年9月17日（木）、信州大学農学部で開催された全国大学演習林協議会秋季総会において、森林管理技術賞の授賞式がありました。本学では、生態水文学研究所の井上淳さんが気象・水文・土砂・生態系の長期観測を基盤とした研究・教育・森林管理への貢献で「特別功労賞」、千葉演習林の大石諭さんが千葉演習林における林道開設および維持・管理業務に関する貢献で「技術貢献賞」、富士癒しの森研究所の辻和明さんが伊豆半島南部の植物分野における情報基盤を整備したことによる教育・研究への貢献で「学術貢献賞」を受賞しました。



左から富樫演習林長、井上さん、大石さん、辻さん

せと環境塾 2015 「大人キャンプ in 東大演習林」

生態水文学研究所

瀬戸市と共催の宿泊講座「大人キャンプ in 東大演習林」が2015年10月3日（土）、4日（日）に参加者10名で行われました。初日は、自転車の車輪を利用した小水力発電実験、斧を使って薪割り体験、ヒノキ丸太で作った自家製コンロで調理を行いました。夕食後、夜遅くまで焚き火を囲んで団欒しました。2日目は1986年に川床から掘り出され、年輪年代法で1204年秋に土砂に埋もれたと推定されたヒノキ木片の見学、見学コースの散策をしました。参加者には森と水のエネルギーを実感し、研究林の自然に触れる貴重な体験となったことと思います。



見学コースで観測施設の説明を聞く参加者
（撮影：瀬戸市環境課）

富士癒しの森研究所では、この夏、台湾からの2件の視察を受け入れました。1件目は7月15日（水）、国立台湾大学実験林（台大実験林）の教職員11名で、台大実験林内に森林療法の拠点を作る計画のための視察とのことでした。本来は翌16日（木）に当研究所の林内見学の予定でしたが、あいにくの台風直撃予報のため、急遽、駆け足で15日中に、夕暮れ迫る林内をご覧いただきました。実証林の間伐区は気持ちが良いと特に好評で、手入れをしないと快適な状態の森林にならないというのは台湾でも共通した課題とのことでした。その後の懇親会で、当研究所の「癒しの森プロジェクト」を紹介したところ、大変関心をお持ちいただき、有意義な意見交換をすることができました。

2件目は、台大実験林と台湾林務局および心理学の先生ら総勢8名で、日本の森林療法や森林浴関連の現場各所を見学される日程の中で、8月27日（木）～28日（金）に訪問されました。27日（木）は当研究所の森林を見学していただき、特徴的な活動についてご説明しました。台湾の森林を管理する立場の方々がお越しになり、地域住民が森林で活動する際の安全対策について気になっているということで、意見交換を行いました。28日（金）は富士箱根伊豆国立公園内の国設の自然学校「田貫湖ふれあい自然塾」を訪問し、そのエリアで行政、民間、大学などが協力して展開している健康増進プログラムの取り組みについて説明を受けました。ここでは、ノルディックウォーキングとヒノキのバスソルト作りのプログラムを体験していただきました。

このほか、今年度の7月には、演習林所属学生の笠原琢志くんが台湾大学で1か月間のサマープログラムを経験しました。また、9月には、アジア大学演習林コンソーシアムが台大実験林で開催され、多くの教職員、学生が参加しました。このように、東京大学演習林と台湾大学との交流が盛んに行われています。



学生実習で製作した「やまなかふえ」カウンターを見学する皆さん

演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧になるか、各地方演習林にお問い合わせください。

【12月】

- 4-6日 体験ゼミ「癒しの森を創る（冬）」☆（富士）
- 5日 秋の休日公開（田無）
- 5日 東大教職員向け「リース・クラフト作り体験会」◆（田無）
- 6日 影森祭（秩父）
- 6日 シデコブシの会「標石を探そう」（生水研）
- 12-13日 体験ゼミ「森の魅力をマッピング」☆（富士）
- 22-23日 体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」☆（富士）

【2016年1月】

- 5-8日 体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」☆（富士・田無）
- 16-18日 体験活動プログラム「伊豆の体験活動
—南伊豆という一地域との連携を学ぶ—」☆（樹芸）
- 23日 公開講座「秩父演習林の動物たち」（秩父）

- 26-30日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ—熱帯植物編—」☆（樹芸）
- 30日 シンポジウム「水害・土砂災害から住民の命を守るには
—過去の災害の教訓をどうすれば生かせるか—」（生水研）

【2月】

- 1-4日 体験ゼミ「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」☆（千葉）
- 3日 森林博物資料館一般公開（千葉）
- 6-10日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」☆（樹芸）
- 22-24日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ」☆（北海道）
- 22-26日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」☆（樹芸）
- 27-29日 体験ゼミ「ダムと土砂と海」☆（生水研）
- 未定 東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」◆（富士）

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

科学の森の動植物紹介

カカオノキ
アオイ科カカオ属
学名： *Theobroma cacao* L.

樹芸研究所

カカオノキは熱帯アメリカ原産の常緑樹で樹高 25 m になります。種子を発酵、乾燥してできるカカオ豆がチョコレートの原料となるため、世界の熱帯雨林で広く栽培されています。花は幹や枝から直接咲き、長さ 15 cm ほどの実になります。一つの果実の中には 30 粒ほどの種子が入っており、種子を包む白いパルプは甘酸っぱく、栽培地でしか食すことができない珍味です。樹芸研究所では種子からカカオ豆を作ること成功し、全学体験ゼミナールなどのチョコレート作りプログラムに使用しています。



カカオの実と甘酸っぱいパルプ
(種子はパルプに包まれている)

名所名物案内

子ども樹木博士

田無演習林

子ども樹木博士とは、子どもが案内人と一緒に森林を散策しながら樹木の名前と特徴を覚えてもらい、その後、枝葉の標本を見ながら名前を当てる試験をして、得点に応じて段位の認定を受けるプログラムです。全国森林レクリエーション協会が推進し、地域の団体・学校等が実施している、全国共通の自然体験プログラムです。田無演習林では、2002 年の秋から毎年春と秋の年 2 回、「子ども樹木博士」認定会を実施しており、今年の秋で 27 回目を迎えたロングランのイベントです。多い時は定員の 40 名を超える参加申し込みがあり、これまで延べ 700 名以上の子どもが参加しました。10 問の入門コース、20 問の挑戦コース、30 問の博士コースの 3 つのコースを設けていて、低学年の子どもから何度も参加しているベテラン(?) の子どもまで楽しむことができます。採点をしている待ち時間にはネイチャーゲームやクラフトを行い、より自然を楽しんでもらうとともに飽きさせない工夫をしています。市民団体と連携しながら実施し、春は全学体験ゼミナールの一環として教養学部の学生が樹木の説明やゲームを担当します。都会に住む子どもたちが自然とふれあう貴重な機会となっており、今後も継続していきたいと思っております。



試験の様子「なんていう名前だったかな？」

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第 7 2 号 (No. 7 2)

発行日 平成 27 年 12 月 10 日

発行人 富樫一巳

編集人 後藤 晋

〒 113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2015@uf.a.u-tokyo.ac.jp